

地域とともにある

勢いのある学校

No. 16 (R2. 9. 8発行) 文責 校長 福田雅也

高き志【こころざし】

所属と愛の欲求

先週、校内で職員向け研修会を行いました。講師に、私が尊敬する元校長先生においでいただき講話を聞かせていただきました。通常、校内での研修会は、授業や指導方法の向上を中心に実施していくのですが、今回はその分野ではなく、「修養」の研修でした。「教師として…」の枠を超え「人として…」という大きな視野でお話をさせていただくことができました。

そのお話の中で「マズローの欲求五段階説」に触れられた部分がありました。講話の中心と直接的な関係はなく、簡単にふれられただけだったのですが、以前聞いたことがあり、少し興味もあったので自分なりに調べてみました。

私が調べた結果、「マズローの欲求五段階説」について簡単に説明すると以下ようになります。

人間の欲求は5段階のピラミッドのように構成されていて、低階層の欲求が充たされると、より高次の階層の欲求を欲するというものです。（右図）

第一階層の「生理的欲求」は、生きていくための基本的・本能的な欲求（食べたい、寝たいなど）です。この欲求を充たせれば、次の階層「安全の欲求」を求めます。「安全の欲求」には、安全・安心な暮らしがしたい（雨風をしのぐ家・健康など）という欲求が含まれます。「安全の欲求」を充たすと「所属と愛の欲求」（集団に属したり、仲間が欲しくなったり、愛されたいと感じたり）を求めます。この欲求が充たされない時、人は孤独感や社会的不安を感じやすくなります。

ここまでの欲求は、外的に充たされたいという思いから出てくる欲求です。

そして次に「承認の欲求」（他者から認められたい、尊敬されたい）という欲求が芽生えます。ここからは外的なモノではなく、内的な心を充たしたいという欲求に変わります。

そして、最後に「自己実現の欲求」（自分の能力を引き出し創造的活動がしたいなど）が生まれます。



調べてみて思ったのは、小学校時代の子供たちと大きく関係するのは「所属と愛の欲求」なのだろうということです。「所属」の部分は、子供にとって一番安心できる家族への所属感はもちろんですが、小学校の集団生活や地域の集団で生まれ、充たされていく部分も大きいのではないかと考えます。そして「愛」の部分は、より年齢が低い段階で、家族をはじめとした身近な人々によって、よりたっぷり充たしてあげる必要があると思うのです。幼少期から小学校時代の子供たちは、ご家族の方々や私たち教師からの「所属と愛の欲求」を充たす取り組みがとても大切であることを改めて感じることができました。そして、「所属と愛の欲求」が充たされた子供たちは、中学生・高校生で多くの経験をしながら「承認の欲求」を充たし、大人として「自己実現の欲求」を充たそうと努力していくのだと思います。

もちろん、こんな難しい説を知らずとも多くの保護者の方々にはたくさんの愛を降り注いでおられることと思います。しかし、今回自分なりに調べてみて、このような説があることを理解したうえで、子供たちを育てていくことには、何らかのプラスの効果があるのではないかと感じることができました。